

紫西会報

第54号

発行所

茨城県筑西市下山590
茨城県立下館第一高等学校
紫西同窓会
(編集兼発行責任者 館野友一)
TEL (0296) 24-6344(代)
FAX (0296) 25-4673
印刷所 戸頃印刷所

「下館一高

創立百周年」

紫西同窓会長 林 廣明

(第四十一回卒)



令和5年、私達の母校茨城県立下館第一高等学校・附属中学校は創立百周年を迎えました。令和5年11月5日(日)、百周年記念事業の記念式典が本校体育館で開催され、母校の卒業生である早田匡芳先生(東京理科大学薬学部生命創薬科学科准教授)の記念講話が行われました。百周年記念事業として、は、記念誌(花かぶはし)の発行、グラウンド夜間照明の設

置、記念七ニメント(本校館野弘先生製作)及び教育活動支援基金の創設(募金活動の実施)が実行されました。特に教育活動支援基金につきましては、目標額の2倍を超える4千数百万円のご支援を頂きましたことに、心よりの感謝申し上げます。教育活動支援基金は、将来の生徒の育成に努める母校の教育活動の支援に充てる計

画です。

私は、百周年実行委員長として、記念事業準備を進めてまいりましたが、高齢の卒業生の皆様ほど、年を重ねると母校下館一高への記憶が鮮明に蘇ってくるようです。活動支援金の約8割が高齢な卒業生からの支援によるもので

私自身も高齢者となりましたが、下館一高の三年間の高校生活は決して忘れることが出来ない私の青春時代でした。軟式野球部、フランスバンド部そして文芸部に入学し、部活に熱中しました。その当時を思い浮べますと今でも胸が熱くなります。

卒業生の間で、必ず話題になるのは、母校で66年間、売店を営んだおぼちゃん山中艶子さんのことです。卒業生が母校を訪ずれた際に、たまたま売店を覗くと「あら！〇〇部の〇〇君」と卒業生の顔と名前を覚えていたのです。おぼちゃんの記憶力には、何人も卒業生が感激したそうです。

最後になりますが、記念すべき創立百周年に卒業する生徒の皆さんは、母校下館一高の百年の歴史と伝統を忘れることなく、輝しい未来に向かって、一歩、一歩、前進することを願っております。

支部活動報告

筑西支部

支部長 宮川 昌己
筑西支部は、令和四年二月一三日に四一九名の会員をもって設立しました。

令和五年六月一七日に四五名の参加により、令和五年度の定期総会・懇親会を開催しました。

令和五年度は、特に百周年記念事業への参画・協力を努めました。今後も会員の親睦を中心に同窓会や母校への支援等の活動を行ってまいります。

筑西市にゆかりのある方(在任、勤務、出身)の支部への入会をお待ちしております。(連絡先 0296-221-3865)

桜川支部

支部長 伊東 留眞運
桜川支部は、旧眞壁町、岩瀬町、大和村の卒業生一六二名の会員をもって、令和五年五月一四日設立しました。

同日、四十七名と本部役員参加のもと、設立総会を開催し、会則(役員(二名))を決定しました。総会後懇親会を開催し、館一の昔話などで親睦を深めることができました。

館一の未来を担う生徒への支援、母校を思う気持ちをもち、支部活動に努めていきたいと考えています。

入会のご案内ができなかった方にはご勘弁を願いのうえ、また、桜川市にゆかりのある方も母校のためと思い支部への入会をお待ちしております。

(連絡先 0296-7662401)

結城支部

支部長 赤荻 治久
結城支部は、令和五年五月二八日に一四名の会員をもって設立しました。同日、四九名の参加により、設立総会・懇親会を開催し、会則(役員(三名))を決定しました。

会員の親睦、同窓会や母校への支援を中心に、総会・研修会および懇親会等の活動を行ってまいります。

設立に二年目に当たる本年は、市内の館一OB・OGの方々に支部活動の周知を図り、会員の増強を進めたいと考えています。

結城市にゆかりのある方(在任、勤務、出身)の支部への入会をお待ちしております。(連絡先 0296-3343711)

創立百周年を迎えて

地域に愛される学校で あり続けるために

校長 奈良 由紀子



紫西同窓会の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また日頃より本校教育活動の発展のために、深いご理解と多大なるご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

去る十一月五日に創立百周年記念式典が挙行され、百年の歴史と伝統を創り上げた卒業生の方々と、未来につながるこれからの百年を創り出す在校生、併せて約千名が一堂に会し、百年の歴史を振り返るとともに未来への新たな飛躍を誓うことができました。二万八千名を超える卒業生の方々は、社会の有為な人材として各界で広く活躍され、母校の後輩である下館一高生、附属中生に温かい支援の手を差し伸べてくださっています。これまで本校の発展のためにご尽力いただきました全ての方々に心から感謝申し上げます。

校時代のエピソードを中心に、生徒達の心に残る熱いメッセージを頂きました。記念講演後には吹奏楽部が百周年式典にふさわしい「百年祭」を演奏し、続いてチャリティーング部、ダンス部による若さあふれる生徒パフォーマンスで、式典会場は大きな拍手に包まれました。

百年にわたる歴史と伝統の中で、本校は国や地域のリーダーとして活躍する多くの優れた人材を輩出し続けています。卒業生が大切にしていた文武両道かつ自由な校風は、先輩から後輩へと受け継がれてきた素晴らしい財産です。この財産は下館一高の誇りであり、諸先輩方が築かれた輝かしい伝統の重みをしっかりと受け止めて、より一層発展させていくことが、今現在の下館一高で学業を修める在校生および教職員に課せられた使命だと思えます。自分自身の可能性を信じて更なる高みへと挑戦し続けられるよう、生徒と教師とともに学び合う学校づくりを進めていきたいと考えています。

去る十一月五日に創立百周年記念式典が挙行され、百年の歴史と伝統を創り上げた卒業生の方々と、未来につながるこれからの百年を創り出す在校生、併せて約千名が一堂に会し、百年の歴史を振り返るとともに未来への新たな飛躍を誓うことができました。二万八千名を超える卒業生の方々は、社会の有為な人材として各界で広く活躍され、母校の後輩である下館一高生、附属中生に温かい支援の手を差し伸べてくださっています。これまで本校の発展のためにご尽力いただきました全ての方々に心から感謝申し上げます。

現在、高校は各学年六クラス、附属中は各学年一クラスの生徒たちが、日々の学習をはじめ部活動や生徒会活動、委員会活動などに積極的に取り組む、充実した学校生活を送っております。今年度は令和二年度に併設された附属中学校の第一期生が高校へと内進し、それに伴い高校の募集定員が五クラス分の二百名となりました。また、今年度より進学重視型単位制高校・併設型中高一貫校として新たな歩みを始めております。

長く続いたコロナ禍で中断されていた学校行事も復活し、少しずつコロナ以前の学校生活に戻ってきました。六月に開催された七曜祭は四年ぶりに一般公開され、執行部を中心に生徒たちの手で創り上げられた文化祭に二千人以上の方がご来校ください、大盛況のうちに終えることができました。

七月には高校野球茨城県大会の初戦が幸運にも開幕戦となり、初めて全校生徒による野球応援が実現しました。四年ぶりに開催された開会式では、本校野球部マネージャーの関さんが場内アナウンスを務め、力強く入場行進する下館一高ナインを勇気づけました。スタンドには多くの卒業生の方々も応援に駆けつけてくださり、熱い声援を受けて開幕戦を見事な勝利で飾ることができ、百周年を祝福するよう記念すべき全校野球応援となりました。

ではの視点で考案されたピアフェスは、大人から子どもまで約千名の方々が集まってくださり、チャ部、ダンス部、吹奏楽部によるパフォーマンスをはじめ、ヒンゴ大会やクイズ大会などで来場者に楽しんでいただきました。

本校では「総合的な探究の時間」において地域の課題解決に向けた課題研究にも取り組んでいます。「ちくせいピアフェス」もその一環です。附属中三年生は筑西市の課題解決をテーマに、県西生涯学習センターで成果発表会を実施します。高校生は学年の枠を外し、二十の講座に分かれてのゼミ形式で探究学習を進めています。実社会や実生活と自己との関わりから問いを見たいし、自分で課題を立て、よりよい社会を実現しようとする態度を養うことを探究活動の目標とし、地域社会や国際社会に貢献できる人材を育成したいと考えております。

グローバル教育では、夏休みのオーストラリア語学研修をはじめ、関彰商事様のインターンシップからベトナム・ジョブフェアへの参加、次世代グローバルリーダー育成プログラム、タイ世界大会への出場など、将来国際社会で活躍できる人材の育成を目指して学びの場を広げています。

新任の先生よりメッセージ

下館一高・付属中に赴任して

教頭 堀川 洋



たので大学入試もうまくいかず、浪人してやっと合格。卒業したはいいものの、留学しようという建前のもと東京でフラフラした生活。思い直して地元に戻り教員になったのは29歳の時でした。

そして今、母校へ帰ってきて生徒の皆さんを目の前にしたとき、なんてすばらしい後輩達なんだろうと感動しています。勉強や部活動だけでなく、七曜祭やクラスマッチ、野球応援など、学校行事にここまで一生懸命になっている後輩達です。私の在学当時はなかつた、執行部という組織にも大変感動しました。組織があることだけでも素晴らしいのに、行事の度に100人からの有志諸君が集まってその行事を支えている事実

にただただ驚かされました。百周年を迎えたわが母校の限りない底力と潜在能力の高さを実感しています。これからの予測困難な社会に立ち向かい、時代をリードしていくのはまさにこの後輩達である

と確信します。自由な校風が伝統の館一ですが、諸先輩方の中には「自由」を「いい加減」という意味でおっしゃる方もいます。しかし今もなお前向きで素晴らしい「自由」、生き生きとした「自由」を後輩達は引き継いでくれています。今後の下館一高がとも楽しみます。そのような母校に戻って行くことができたら本当にうれいす。

これからも素晴らしい後輩達と一緒に自由あふれる下館一高を作っていけるように、自分も頑張りたいと思います。

今年度より牛久高校から赴任しました。長く県南地区の高校での勤務でしたが、もともと下妻市の出身であり、いろいろと懐かしむことが多いこの半年でした。そして、百



下館一高・付属中に赴任して
教頭 稲葉 正幸

周年を迎えた伝統校で優秀な人材を世に数多く送り、県西地区トップクラスの進学校に微力ながら尽力させていたただくことは大きな誇りです。赴任前に本校ホームページで目を引いたのは「グローバル人財」という言葉です。まさに今は国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験をもって、地域社会や地域経済の活性化や持続的発展に貢献するグローバル人財が求められる背景があり、下館一高にふさわしい言葉です。また、今は以前では考えられないほど海外からたくさんの人たちが日本に来ています。生徒の皆さんは、グローバル人財に求められる異文化理解とコミュニケーションスキルや地元産業の魅力を発見し、海外に発信・展開する力をぜひ身につけてほしいと思います。

もう一つ赴任して常々感じることがあります。それは本校には多様な学びの仕掛けがあることです。それは普段の授業、進路関係の行事、探究活動だけではなく、友人や教員も含め、つい学び続けてしまっ環境が、下館一高にはたくさんあります。校舎は新し

くはないかもしれませんが、私も大好きな歌の一つである荒井(松任谷)由実の「あの日にかえりたい」のように高校生に戻って「自分の想像を超える自分に出会いたい」と思わせる学校です。何事も前向きに取り組んでいきましょう！



下館一高・付属中に赴任して
菊地 宏之

今年度、下妻第一高等学校から参りました。教科は数学、一年四組の担任、そしてバドミントン部の顧問になりました。

生徒と関わる上で、潜在能力を最大限に引き出せるような教員でありたいと思っています。生徒の皆さんも一度しかない高校生活を充実したものにするため精一杯頑張ってください。

また、1年も経過していませんが、バドミントン部顧問

として印象深いシーンを目の当たりにしました。それは新人戦県西地区大会での男子学校対抗戦でした。ダブルス二試合、シングルス1試合を勝利し、下館一高男子としては二年ぶりの県大会出場を決めました。どの試合もファイナルゲームまでもつれこむ熱戦でした。最後のシングルスは個人戦のときに負けた相手がい応援して、出場した選手が応えた結果でした。それまでの負け試合のことを思うと、全力で勝ちにいった試合でした。

高校生活においても、卒業してからもこのように取りいかなくてはならない局面は必ず訪れます。そのような時に、逃げずに立ち向かえる人間性をこの学校生活で育んでください。全力で応援します。



紫西会報

につかれていたこと、学校の前にあったおそは屋さんに昼に抜け出して体育の優しい先生に叱られたこと、等々とても自慢できる高校生活ではありませんでした。勉強そっちのけで部活しかやっていなかった

下館一高・付属中に赴任して

和田 悠希



この度の定期人事異動で、古河二高から赴任してまいりました。創立百周年と伝統ある下館一高の一員となること

ができ、大変光栄に思います。生徒の自己実現のため頑張りますのでよろしくお願いいたします。

これ以降のまじめな話は他の先生にお任せするとして、我が家の飼い猫の話を書かせていただきます。

我が家には猫が二匹います。一匹はペットショップで購入した猫で、病気がちです。腎臓があまりよくないよう

うで、二歳になる前に手術をしております。それ以降は病院で処方されたペットフードを食べており、飼い主である

私よりよいものを食べているのではと考えることもあります。さてこの猫を飼い始めてか

ら、うちの庭に野良猫が出没するようになりました。餌があるわけでもなく、軒下もないため、庭にいる理由がわかりませんでした。ある日のこ

と、窓から庭を見るといつものように野良猫がいました。そして庭を見る飼猫、無音

ですが口を動かし、何かを話しているようなそぶりでした。野良猫を、この猫が読んでいる...不思議な感覚を感じました。

その後庭の倉庫に住み着いてしまった猫を救出し、二匹目の飼い猫としました。先

住猫が、文字通り特に目をかけていた猫で、生後半年程度の猫でした。家の中上げる

と、最初は警戒していた先住猫も一緒に遊ぶようになり、今では二匹目が食べている安い餌も奪って食べるようになり、楽しい毎日を送っているようです。

自由気ままに生きていると感じる猫でも、誰かを救うことがあるようです。うちの元野良猫は先住猫によって救われました。みなさまの周りにも同じように救われている方がいると思います。みなさま

もぜひ縁を大切にしていた

き、また私自身も本校や、本校で出会う方々との縁を大事にしたいと思えます。

下館一高・付属中に赴任して

渡邊 健太



今年度、体育科教師として、総和工業高校より異動してまいりました。

私は、旧関城町の出身で、地元の今年創立百周年を迎える歴史ある学校に勤務するということ、気持ちの引き締まる思いで赴任しました。たくさん不安も多し中、生徒

の明るい挨拶や気さくに声をかけてくださる職員の方々によって、恵まれた環境の中で仕事ができる有難みを感じております。

下館一高の生徒と日々接する中で感じることは、すべてのことに対して、とても前向きに取り組み生徒が多く、行事ごとなども生徒主体で実行する、自立した生徒が多いと

いうことです。様々な行事の準備段階で、教員からのアドバイスを求めるのではなく、自分たちで解決策を考え、前進していく姿には、非常に驚かされています。このようなエネルギーや可能性をたくさん持つ生徒たちと日々過ごすことができ、私自身も改めて成長していかないといけないなど日々痛感しております。

私は大切にしている言葉があります。それは、「明日やろうは、馬鹿野郎!」です。元サッカー日本代表の遠藤選手もよく使っていた言葉です。私はこの言葉を大切に一日一日過ごしています。目の前にある、やるべきことを後回しにせず、やるべきことをコツコツ積み重ねていくことが成功への近道になります。高校生活はあっという間に過ぎていきます。後悔することがないように毎日を全力で過ごしていき、豊かな人生を歩んで行って欲しいと思います。

下館一高の生徒が成長できるように精一杯サポートしていきますので、今後とも宜しくお願い致します。

下館一校に来て感じたことは、この学校が温かく、活気に満ちた場所であるということです。ある日「下館一校の素晴らしいところ」というテーマで授業をした時、生徒が書いた答えは「人が優しい」でした。人が優しい、人が温かい下館一校に来ることができて本当に嬉しく思います。

1学期の頃、授業が上手くできず悩んでいた時、「先生の授業楽しいです」と、生徒達が元氣付けてくれました。皆さんのお陰で、今はここ下館一高で授業をするのが本当に楽しいです。沢山温かい言葉をかけてくれて、授業を楽しくしてくれて有難う。

又、学校行事では、企画から運営までの大部分を生徒主体で行います。生徒達が自分で考え行動し、互いに協力しながら次々にアイデアを形

下館一高・付属中に赴任して

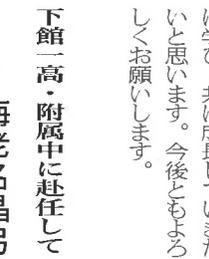
上林 拓哉



皆さんと一緒に学校生活を送る中で、授業や学校行事も勿論ですが、「人として大切なこと」を一緒に学び、共に成長していきたいと思えます。親・家族を大切にし、人を優しく思いやること。温かい言葉前向きな言葉を使うこと。世の中の良い所を数えて、感謝を忘れないこと。辛い時でも感謝と前向きさを忘れず、一段一段乗り越える姿勢をもつこと。こうした大切なことを、下館一校の皆さんと一緒に学び、共に成長していきたいと思えます。今後ともよろしく申し上げます。

下館一高・付属中に赴任して

海老名晶弓



十一月は毎日が小春日和だった。本日は風も穏やか

で、白いボールが青空によく映えた。担当している部活動の生徒に「返事をしよう」と促した。帰りの車で今日を振り返り、思い出す言葉があった。「廊下を走るな、陰口叩くな、飯は残すな、挨拶忘れるな。そういうことは、あの頃誰もが教えられているはずなのに。叱られるのは嫌うけれど、導かれたらなんてエゴの極み。嫌われるのが怖いくせに、優しくできないのはバカの極み。」

日食なつこさんという女性のシンカーンクライターが作詞作曲した「廊下を走るな」の歌詞である。この方の繰る言葉にはいつも、胸を喰われるような衝撃を受ける。

報 西 会 紫
にカッコつける癖があった。失敗したら反省し、悔しがり

ながらたくさん練習した「あの頃」のようにシンプルでいいはずが、いつの間にか忘れていた。「陰口叩くな、飯は残すな、挨拶忘れるな。」今日、部員に伝えた返事をはじめ、当たりの前ことを当たり前にすることを忘れていたのは、どうも。私の言葉に、授業に、素直に耳を傾けてくれるみなさんと対峙するたびに「そういう自分はどうなのだ」と反省する。私が私を取り戻したいと思えたのは、異動したばかりの私を迎え入れてくれた二年生や二組クラス、部活動部員をはじめ、関わってくれるみんなのおかげだ。

下館一高で今日まで過ごし、笑わない日は一日もなかった。時は過ぎ価値観も変わる。それでも、きつといつの時代も変わらない「あの頃誰かが教えられているはず」のことを、一緒に刻んでいきたい。みなさんが大人になって思い出す「あの頃」が、懐かしむだけの過去でなく、明るい方へ導くものとなるように今にしたい。明日も挨拶、忘れません。これからもよろしくお願いします。

下館一高・付属中に赴任して

若林 歩優



今年度家庭科教諭として、下館一高・付属中に新採赴任しました。私の教員人生が始まる最初の学校が、今年創立百周年という伝統ある下館一高であることは、とても嬉しく、身が引き締まる思いです。

私は高校生の時はまだ家庭科の教員になるとは全く思っていませんでした。むしろ、受験に関係ないとあまり授業を聞かなかった反面教師な生徒でした。中には同じように考えている人もいると思えます。しかし私は高校を卒業し親元を離れ自立していく中で、家庭科という教科のすばらしさに気づき、ちゃんと家庭科の授業を聞いていけばよかったと後悔しました。今では、家庭科ほど学習したこと

くと、真っ先に調理や被服を思い浮かべると思えます。もちろん料理を作る技術はとても大切です。しかし、外食や中食が気軽にできる現代では、さらに栄養バランスを考慮しつつ食品を選択することができる力なども必要だと思っております。より実践的なことも教

えたいと考えています。授業でも「これは今日からすぐに実践できるからね」と丁寧に言っています。今は生かせるくても、将来役立つこともたくさんあります。私は今家庭科という教科が大好きです。そして、ご縁があり下館一高の素晴らしい生徒に大好きな家庭科を教えられることができ、とても幸せです。家庭科を学ぶのは人生で六年程しかありません。家庭科が少しでも皆さんの生活を彩る手助けができれば嬉しいのです。

さて、本校に赴任してから早くも一年が経とうとしています。新しい生活にもようやく慣れ、毎日充実した生活を送っています。これは、日々サポートし見守ってくださる優しい全ての先生方を始め、拙い私の授業をいつも真剣に聞いてくれる一年生や附属中の

生徒、いつも頑張る姿に元気をもらっている茶道部、バスケットボール部の生徒や下館一高みんなのおかげです。この感謝の気持ちを皆さんに還元できるように、初心を忘れずに日々精進していきます。よろしくお願いします。

下館一高・付属中に赴任して

福田 侑平



今年度、下妻市立宗道小学校より附属中学校に異動してまいりました。二十数年前、私は、この下館第一高等学校を卒業しました。

当時は振り返ると部活動に打ち込んだことや七曜祭でお化け屋敷やプラネタリウムを作ったことが思い出されま

ことや友達と行事に打ち込むことなど自分の感情を積極的

に動かしてください。欲を言えは、様々なことに挑戦する中で、時にはうまくいかない経験もして欲しいと思っております。館一の先輩として、先に社会に出た者として、伝えられることは、社会は正解のない問いの連続で、その場に留まっていることができないということだと思います。だから「挑戦から学ぶ」しなやかな精神が必要で、うまくいかないことに向き合いながら、自分や周囲の人を良い方向に導いていける。そんな社会人が素敵ではないでしょうか。

もうすぐ異動して一年が経とうとしていますが、下館一高には皆さんが成長できる機会がたくさん用意されています。語学研修や海外研修、多くの行事など。館一生でいられることは幸せなことだと思います。自分で掴み取ったチャンス、館一という学びの場で大きく成長して欲しいと願っています。そして、微力ながらそのお手伝いをしたいと思っております。

熟です。生徒の皆さんの成長に負けないように自分も成長していきたいと思えます。どうぞよろしく、お願いいたします。

下館一高・付属中に赴任して

鈴木 拓馬



四月より下館一高に赴任しました。昨年度までは真壁高校に努めていましたが、真壁高校の全校人数は200名程度で、下館一高一学年より少なく、四月当初は在校数の多さに驚きました。一クラス40人の教室も久しぶりで、授業も教室の人口密度に圧倒されながらも行っていましたが、一年もすれば慣れてきました。

在校生の皆さん、下館一高の生活はいかがでしょう？私が勤めて感じたことは生徒の個性が豊かなことです。学習だけでなく、さまざまな行事やイベントに積極的に参加

し、自分のスキルの向上に努めているのを見て素晴らしいと思えました。その経験は将来の進路に必ず活かせるはずで、そして、そのかけがえのない3年間に関わられることを嬉しく思っています。

付属中学校が設立して四年目となり、一期生が高校に進級した今、下館一高の注目は高まっていると思います。今年で100周年という大きな節目を迎えた伝統ある学校で勤務できることを誇りに感じ、皆さんの進路実現に貢献できるように、また思い出に残る学校生活を送れるよう努めていきたいと思えます。今後ともよろしく、お願いいたします。

下館一高・付属中に赴任して

池田 孝子



この四月に下館一高に赴任しました。昨年度までは筑波高校で勤務しておりました。生徒の皆さんが気持ちよく

挨拶してくれる姿や行事等で積極的に動く姿勢が印象的で、とても好感をもちました。自由で自主的な校風が根付いているのだなと感心しています。

図書館や実習、その他の関わりを通して、生徒の皆さんの成長につながる手伝いが出来たらと思います。また、必要な本の提供やサードプレイスとしての図書館をもっと居心地の良い場所として提供できるように頑張る所存です。気軽に声をかけてください。リクエストお待ちしております。

下館一高・付属中に赴任して

菊池 博



昨年度末、下妻特別支援学校を最後に定年退職し、この四月から再任用事務職員として下館一高に配属されました。創立百年を迎えた節目の年に母校で仕事ができることを幸せに感じております。

私が下館一高に入学したのは、昭和五十三年。まだ昭和の良き時代が色濃く残っていた頃でした。重厚感のある旧本館は残っており、現在の普通教室棟は建設中でもありました。一年時は木造舎で学んだことや今も続いている七曜祭、クラスマッチ等が懐かしく思い出されます。

下館一高で学べたことは今でも良かったと思っております。四十数年ぶりに母校へ戻ってきて直ぐに感じたことは、生徒の皆さんが素晴らしい姿で、落ち着いた生活態度や礼儀正しい態度には毎日感心させられています。そのような生徒の皆さんへ一言、人生百年時代とも言われますが、そのうちの高校の三年間は将来を左右するとても大切な時間であると思っております。生徒の皆さんには、下館一高で学ぶ三年間を無駄に過ごさず、それぞれ目標に向かって努力していくとともに、皆さんの良い友人関係を築く等充実した高校生活を送っていただきたいと思えます。また、これからの人生において辛く困難な場面に出くわす

ことがあるかもしれません。その時はそれらに負けずに乗り越えられる強さを持つていただきたいと思えます。大した事は出来そうにもありませんが、生徒皆さんのため、お役に立ちたい思いでおります。どうぞよろしく、お願いいたします。

下館一高・付属中に赴任して

宮本 耕平



今年度、県立小瀬高校より下館一高・付属中に異動してまいりました。付属中学校ということで、私にとって新しい環境であり、不安や緊張を感じる部分もありましたが、生徒や先生方がとても温かく、日々充実した学校生活を過ごさせていただきました。特に生徒たちの自主性、エネルギーに溢れた行動力、学習に向かう態度はとても素晴らしい、学校行事等でみられる清々しい生徒の顔から元気を

たくさんもらうことができました。この1年間のなかでは私にとってなかなか思うようにいかない事もあったのが正直な所ですが、日々接する生徒や先生方に助けられ、本当に感謝しありがとうございます。ありがとうございました。

話は少し変わりますが、つくば市出身の私は赴任してから初めて、筑波山がなせ「紫峰」と呼ばれるのが分かった気がしました。この下館の地から見る筑波山は夕日に照らされ、紫色のシルエットになる光景を見たからです。とても綺麗な光景に感動したことを覚えています。この素晴らしい下館の土地で生徒たちが生き生きと安心して学校生活を送れるように、これからもサポートしていきたいと思っています。まだまだ至らぬ点もありますが、今後ともどうぞよろしく、お願いいたします。



進路指導の現状

学習進路部長 薄井裕美

【近年の入試概況と今後の展望】

受験環境の特徴として、まず、受験人口の減少と大学入学生員増による競争の緩和が挙げられます。十八歳人口の減少に伴い、2023年度の大学志願者数は、1992年のピーク時の約53%にまで減少しています。一方で、大学入学生員は新設や増設、私立大学の公立化などにより増加が続いています。こうした傾向は今後も続くことが予想され、大学入試は全体としては競争緩和の時代に入っています。

の推進、理工系や農業系の分野をはじめとした女性の活躍促進等です。それに伴い、国立大学では、データサイエンス系学部の新設や都宮大学、千葉大学等）や理工系学部での女子枠の導入（東京工業大学学校推薦型選抜等）、文理双方から受験可能な科目の設定等の動きが出ています。茨城大学でも2024年4月に地域未来共創学環が新設されます。

とがより重要になります。

【本校生の状況】

2023年3月の卒業生は、国立公立大学に59名が合格しました。内訳は学校推薦型選抜・総合型選抜13名、一般選抜前期40名、中期2名、後期4名でした。茨城大学には推薦2名、前期8名、後期1名が、筑波大学には推薦3名、前期2名が合格しています。また、弘前大学医学部医学科（前期）にも合格者を出しました。

私立大学については、学校推薦型・総合型選抜で39名、一般選抜でのべ450名が合格しました。

こうした動きは、大学での学び方にも影響を与えます。現在は、大学で身に付けた力を社会で発揮できることに意味がある時代になっていきます。入学時の難易度よりも卒業時の人間力を高めることが大切なのです。ここで言う人間力とは、機械にはできないことをする力です。現在の職業が将来なくなる可能性があることを考えると、職業から逆算して大学を選ぶだけでなく、自分が成長できるかどうかという観点で大学を選ぶこと

（主な大学合格者数及び進路決定先人数につきまして）

は、別表をご覧ください。）

進路希望を叶えた生徒の傾向として、まず挙げられるのが、学習習慣が身につけていること、基礎・基本を大切にしていることです。合格した多くの卒業生が、「継続する

ことの大切さ」について述べています。言い古されたことではありますが、常に自分の学習内容や学習方法を振り返りながら、「予習・授業・復習」のサイクルを習慣として確立することが、やはり重要なのです。

次に挙げられるのが、受験に主体的に向き合っていることです。ある卒業生は「自分が大学に何を求めるかが大切だ」と言っています。大学全入時代と言われる時代だからこそ、主体的な大学選びが必要です。

2024年3月卒業生（現3年生）は、1月19日現在、国立公立大学に13名、私立大学に45名が合格しています。1月13、14日に行われた大学入学共通テストには216名が挑戦しました。

【本校の取り組み】

本校は、様々な変化に積極的に向き合い、多様な人々と協働して課題を解決する力や、新たな価値を創造する力を持つリーダーを育成することを目指しています。多様化する入試に対応し、生徒一人一人の十年後、二十年後の未

来を見据えた指導をしていきたいと考え、様々な取り組みをしています。今年度の主な進路行事は以下の通りです。（予定含む）

高3

・進路講演会（生徒・保護者）

・志望理由書講座①②

・小論文講座①②

・茨城大学学部説明会

・都宮大学学部説明会

高2

・夢ナビライブ

・進路講演会（生徒・保護者）

・大学見学会

・小論文講演会

・志望理由書の書き方講演会

高1

・進路講演会（生徒・保護者）

・城西フレカレッジ

・企業訪問

・大学見学

・複数学年

・安河内先生の英語公開講座

・西部メティカルセンター薬剤師実習

・茨城大学学長室訪問

・筑波大学人分社会科学研究所 群公開講座ツアー

・難関大医学部進学支援講座

・医療系小論文講座

・各行事の内容につきまして

は、HP等をご覧ください。）

・進路講演会（生徒・保護者）

・その第一期生となる第一年度が、下館第一高等学校附属中学校の初めての卒業生四十名を含む二百四十名でスタートしました。また、長かったコロナ禍から明けた年でもあります。中学入学から卒業までの3年間をコロナ禍で過ごした生徒達です。その分、高校生活を思いっきり充実させてほしいと思います。

入学して間もなく行ったブリティッシュヒルズの語学研修では、活発に活動する姿が見られ、友人との距離をぐっと縮められたようです。英会話の難しさや必要性を感じることができて、語学力を高めたいと学習意欲も高まったようです。夏休みにオーストラリアのパスで行われた語学研修には十五名の一年生が参加しました。今後、社会で活躍するために不可欠な国際的な視野を身に付けることを目指して、機会を見つけて

来を見据えた指導をしていきたいと考え、様々な取り組みをしています。今年度の主な進路行事は以下の通りです。（予定含む）

一学年概況

一学年主任 海老澤淳子

本校は今年度から進学重視型単性高校に移行しました。その第一期生となる第一年度が、下館第一高等学校附属中学校の初めての卒業生四十名を含む二百四十名でスタートしました。また、長かったコロナ禍から明けた年でもあります。中学入学から卒業までの3年間をコロナ禍で過ごした生徒達です。その分、高校生活を思いっきり充実させてほしいと思います。

入学して間もなく行ったブリティッシュヒルズの語学研修では、活発に活動する姿が見られ、友人との距離をぐっと縮められたようです。英会話の難しさや必要性を感じることができて、語学力を高めたいと学習意欲も高まったようです。夏休みにオーストラリアのパスで行われた語学研修には十五名の一年生が参加しました。今後、社会で活躍するために不可欠な国際的な視野を身に付けることを目指して、機会を見つけて

各学年の現状

さらなるチャレンジを期待しています。

六月、一般公開での七曜祭を四年ぶりに開催できました。学校行事を執行部が中心となつて行う形式は本校ならでは、の伝統です。多くの一年生が執行部に参加しました。アイデアを出し合い、協議を重ねて、戸惑いながらも先輩達と協力して一生懸命に取り組んでいました。執行部だけではありせん。クラス企画では、以前は飲食店の出店を楽しみにしていましたが、衛生上の問題等で今はできません。そんな中、ボウリング、縁日、ジャンククルーズ、ゲーム、神社、フォトスポット、どのクラスも豊富なアイデアいっぱい企画と、工夫を凝らした運営で、こんなに楽しい催し物ができるものかと感心しました。歩くのが困難なほど多くの一般の方にもお越しいただき大盛況で終えることができました。生徒のツカの大きさを実感しました。

これからも挑戦できる行事はたくさんあります。挑戦するからこそ得られるものが必ずあります。すべての生徒が高校生活を意欲的に主体的に

積極的に楽しむことを願います。その気持ちがあれば、道は自ずと開かれるはずですから、やるにもよりよいものを目指す、知識や考える力が絶対必要です。どんな進路に進んでも生かせる力をつけて欲しい、今だからこそできる挑戦を続けていく生徒を応援しサポートしていきたいと思ひます。

一学年概況

二学年主任 太田 一也

高校生活も折り返し地点を過ぎ、いよいよ三年生の学期が始まりました。新型コロナウイルスも五類扱いとなった中、年度当初に企画した学年行事もすべて実施することができ、完全に元の生活に戻った感があります。

さて、この数か月を振り返ってみますと、何と云っても十月三日から六日に実施された高校生活最大の行事である修学旅行があげられます。

神戸・大阪・京都三泊四日の旅でしたが、二年生の普段の生活を鑑み、すべての行程で班別による自主行動を計画し、ある意味みんなへの信頼の証

「自由」を満喫してもらいました。こちらの期待通り、節度を持った行動の中、半日だけ体調を崩しホテルで休養した生徒一人が出ましたが、全員が全日程をこなしてくれました。いくつか印象に残っている中の一つが、USJから戻ってきたみんなが、「足の裏やばいです。」と、きつい言葉。「こんなに思いつき楽しんでくれているんだ。」と、こちらが幸せになるくらい感動でした。そして、最終日の夜、いくつかのホテルに分散しての「ディナーフュジェ」や、夜の「学年集会」でも多くの生徒が飛び切りの笑顔をを見せてくれました。修学旅行の代休が終わわり、学校生活が始まるや否やの、インフル蔓延による「学年閉鎖」。行事への集中力、執念が見事でした。二年生に「あっぱれー」です。

高校最大の行事を、最高の形で終わることのできた、最高の学年です。残りの学校生活でもあの飛び切りの笑顔をいっぱい見せてもらいたい。最後まで、人を思いやる、優しい心を持ち続け、みんな仲

良く楽しい学校生活を送りましょう！「下館一高に来てよかった。」とみんなが思えるよう、陰ながら支えていく所存です。二年生最高！

三学年概況

三学年主任 市村 太一

十一月下旬、毎年同じ時期にこの原稿依頼を受けました。過去二回は新年度が始まってからの約八か月を振り返っていました。しかし今回は、三年生が入学する直前に数名の新入生が手続きに來た時のことを無意識に思い出しました。当時の私は、数日前に学年主任を打診され、翌日までに回答しなければなら

い状況でした。様々な不安を抱え悩んでいた私に、新入生が「こんにちは」と実に気持ちの良い挨拶をしてくれたのです。その生徒の挨拶に背中を押され、新入生とともに私も新たなスタートを切りました。

現三年生は入学当初から、常にコロナウィルスを意識する中で学校生活でした。しかし、その様な社会状況の中、でも生徒達の考動力により多くの学校行事を行うことがで

きました。今年度についていえば、六月に行われた七曜祭がまず思い出されます。来場者制限無しでの開催は実に四年振りでした。喜ばしい反面、過去二年の経験がない中での準備となり、企画・運営は想像以上に大変なものとなりました。

毎回感じるのですが、今年も七曜祭後の片付けの早さには感心しました。生徒達は自然な流れの中で役割分担し、限られた時間の中で教室を復元し、遅れているクラスに協力してくれるのです。館一生活は当たり前と感ずるかもしれませんが、私はこれこそが他の学校にはない本校の良さであると感ずっています。

また、野球応援が行われた七月八日は本校にとって特別な一日となりました。試合前から一塁側スタンドを埋め尽くした全校生徒による大応援団はまさに圧巻でした。そして勝利後に全力で歌った校歌はいつまでも生徒達の心に残ることと思います。

九月にはクラスマッチが行われました。天候にも恵まれ、クラスの仲間と協力し、三年生にとって高校生活最後の学

校行事を満喫したようでした。現在三年生は、約四十日後に迫った共通テストやその後の一般入試へ向けて、一所懸命に勉学に励んでいます。推薦試験等を経験した生徒達を見てみますと、実に落ち着いた表情をしているように感じ

ます。様々な不安や緊張の中で準備し、試験をやり切ったことが自信に繋がっているのだと思ひます。これから受験が本格的に始まり、さらに体力的にも精神的にも苦しい日々が続くと思ひます。しかし、大学受験に限らず、自らの進路を自らの力で切り開くこの経験は何物にも代えられない大きな財産になるはず

です。高校生活も残り約三か月となりました。生徒達には自らの進路に最後まで全力を尽くしてほしいと思ひます。そして三月の卒業式では、担任の呼名に対し全員が大きな声で返事をし、胸を張ってこの館一を卒業して欲しい。そのために私たち教員も、生徒一人一人の進路実現へ向けて最後まで支援していきたいと思ひます。

思ひます。



創立百周年記念式典

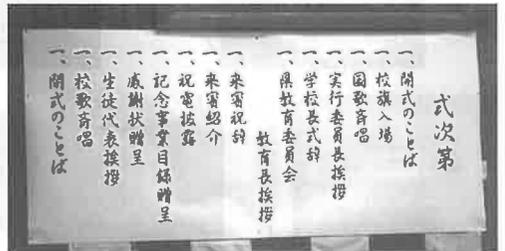
令和五年十一月五日
於 下館一高体育館

祝創立百周年記念式典

茨城県立下館第一高等学校・附属中学校



第 I 部 記念式典



第II部 記念講演

講師 早田 匡芳氏
(六十七回卒)



記念事業

・教育活動支援基金
・夜間照明設備



・記念誌「花かくはし」



・オリジナルトートバッグ
・オリジナルクリアファイル



・記念事業DVD



・モニュメント



第III部 生徒パフォーマンス

吹奏楽部・チャリティーディング部・ダンス部



創立百周年祝賀会
令和五年十二月五日
於 ホテルつたや



百周年記念式典の様子や
記念事業等については、
下館一高のホームページで
ご覧いただけるよう、現在
準備をすすめております。

QRコード



下館一高ホームページ

URL <https://www.shimodate1-h.ibk.ed.jp/>

報

会

西

紫

後藤祐一	齊藤成美	さかひ雅之	篠原理	下籠岡屋翁徳徳	鈴木栄久代	清家旭	高久晃一	田崎秀美	茅根芳幸	同窓会実行支部	中沢努	中村泰之
小沼和津江	齊藤三枝子	酒入登	篠原喜代美	下籠岡屋翁徳徳	鈴木茂	生野亨一	高久直志	田崎裕子	千葉訓子	同窓会徳行支部	中沢寛	中村裕美子
小林和朗	齊藤美奈子	酒奇喜	篠原仁	昭和47年卒28会	鈴木俊彰	関正樹	高澤祐也	田崎嘉子	告征夫	遠山茂	中澤正雄	永盛清美
小林けい子	齊藤豊	酒奇喜	篠原陽子	昭和47年卒28会	鈴木俊一	関正彦	高島健二	田嶋謙一	津賀壮司	飛毛操	中島昭浩	永盛達郎
小林正浩	齊藤律子	酒奇喜	忍垂孝雄	昭和47年卒28会	鈴木成基	関光弘	高田昇	田嶋貴子	塚越浩	戸頃忠一	中島七月	永盛寛
小林昇	五月女美智子	酒奇喜	柴一夫	昭和47年卒28会	鈴木忠男	関元明	高田好雄	多田和代	塚越実	戸田裕	中島孝夫	永盛由美
小林倫子	坂井清	酒奇喜	柴恵子	昭和47年卒28会	鈴木保信	関口貞一	高根沢滋子	多田慎吾	塚越裕子	戸張純子	中島廣一	中山一朗
小林正樹	坂井高志	酒奇喜	柴静花	昭和47年卒28会	鈴木照実	関口澄子	高根澤登志子	館和子	塚田明	飛沢伊久男	飛田忠男	中山喜一郎
小林正志	酒井洋子	酒奇喜	柴孝二	昭和47年卒28会	鈴木木徹	関口正	高根澤登志子	立川和敏	塚田恵一	飛田忠男	飛田利通	中山順姫
小林政広	坂入逸雄	酒奇喜	柴保之	昭和47年卒28会	鈴木木敏一	関口忠宏	高野春生	橋川和夫	塚田五男	飛田利通	富田利通	中山山
小林三恵子	坂入重樹	酒奇喜	柴千尋	昭和47年卒28会	鈴木木三男	関口友二	高野良則	立堀須美夫	塚田省吾	飛田利通	富田克己	中山比呂子
小林幹愛	坂入重夫	酒奇喜	柴勉	昭和47年卒28会	鈴木木も子	関口友二	高橋昭	卓球部O B会	塚田浩美	飛田利通	富田俊男	中山比呂子
小林唐晃	坂入清四郎	酒奇喜	柴泰裕	昭和47年卒28会	鈴木木直治	関口典子	高橋明日香	籠野友一	塚田泰博	飛田利通	富田伸一	中山三佳子
小林洋子	坂入武司	酒奇喜	柴優子	昭和47年卒28会	鈴木木直治	関口典子	高橋義朝	籠野英喜	塚原順子	飛田利通	富田千恵子	中山三佳子
小林倫	坂入俊夫	酒奇喜	柴山桂子	昭和47年卒28会	鈴木木直治	関口典子	高橋清美	棚井一博	塚原達也	飛田利通	富田亮二	中山良一
小堀邦子	坂入富夫	酒奇喜	柴山光	昭和47年卒28会	鈴木木文夫	関根和行	高橋国夫	田中和雄	塚本一恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
小堀憲男	坂入英男	酒奇喜	柴山兼光	昭和47年卒28会	鈴木木文子	関根和行	高橋堅治	田中邦子	塚本公也	飛田利通	富田亮二	中山良一
小侯隆一	坂入勝範	酒奇喜	柴山希一	昭和47年卒28会	鈴木木文子	関根和行	高橋郷史	田中郷康	塚本公也	飛田利通	富田亮二	中山良一
小松崎聡	坂田よう子	酒奇喜	柴山久美子	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
小松崎安美	坂部俊行	酒奇喜	柴山仁六	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
小室啓子	酒寄久江	酒奇喜	柴山真理子	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
小室優二	酒寄和記	酒奇喜	柴山佳美	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
小森健市	鷺谷秀子	酒奇喜	嶋田一郎	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
古谷野勝男	佐久間和之	酒奇喜	嶋田栄子	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
古谷野哲夫	桜井篤	酒奇喜	嶋田敏	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
古谷野正明	桜井幸子	酒奇喜	嶋田寛	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
近藤かおり	桜井早苗	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
近藤真理子	桜井省己	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
小高正充	桜井崇	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤薫	桜井千洋	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤力ノ	櫻井哲雄	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤計雄	櫻井英雄	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤三郎	桜井浩	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤三千代	櫻井操	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤孝明	櫻井康博	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤孝志	桜井陽二	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤次男	桜井嘉男	酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一
齋藤直起		酒奇喜	嶋田信夫	昭和47年卒28会	鈴木木守治	関町一雄	高橋好又	田中昭章	塚本佳恵	飛田利通	富田亮二	中山良一

紫西会報

根本一枝	長谷川孝夫	平石昇	藤井茂夫	星野豊	町田初恵	三宅則子	持田真之	矢野順	吉岡久二夫
根本和治	長谷川智美	平岩元之	藤枝宣一	細谷勝巳	松居照邦	三宅正恵	持田幸雄	矢野有	吉岡聡
根本啓司	長谷川幸江	廣澤行雄	藤枝たま江	細谷英樹	松岡道法	三宅守夫	本橋昭夫	山内洋行	吉岡茂和
根本哲人	初澤庄二郎	広沢嘉成	藤枝操	細谷眞	松崎憲晃	三宅由美子	本橋史代	山口明	吉澤正夫
根本智子	服部和文	広沢清	藤岡保代	細谷豊	松谷知子	宮崎佳子	森一起	山口和久	吉田憲一
野口勝男	服部智	広沢健雄	藤木正義	細谷祥之	松村悦裕	宮崎光雄	森章	山口佐知子	吉田憲一
野口幸子	嶋貝史郎	廣澤正樹	藤倉慎一	保田陽出雄	松本重枝	宮下麻衣子	森保	山口百恵	吉田隆
野口利重	嶋久美子	広沢教子	藤沢倉次	堀田三男	松本清一	宮田英子	森輝男	山口千恵子	吉田隆
野口祐樹	嶋久美子	廣瀨寛	藤沢倉次	堀田三男	松本清一	宮田英子	森輝男	山口百恵	吉田隆
野口理恵	嶋久美子	廣瀨一重	藤田一夫	堀田三男	松本清一	宮田英子	森輝男	山口百恵	吉田隆
野澤彰	嶋久美子	廣瀨和夫	藤田一輝	堀江以子	松本清一	宮田英子	森輝男	山口百恵	吉田隆
野澤茂紀	嶋久美子	廣瀨恵子	藤田一輝	堀江以子	松本清一	宮田英子	森輝男	山口百恵	吉田隆
野沢友子	羽田次雄	廣瀨進	藤田一輝	堀江以子	松本清一	宮田英子	森輝男	山口百恵	吉田隆
野沢八千万	羽田正美	廣瀨誠治	藤田たか子	堀江信男	松本康彦	宮田武司	諸儀明	山崎圭一郎	吉原隆
野沢正義	浜野京一	廣瀨隆明	藤田忠弘	堀江信男	松本康彦	宮田武司	諸儀明	山崎圭一郎	吉原隆
野澤裕子	濱野守正	廣瀨孝一	藤田恭壽	堀米秀男	松本康彦	宮田武司	諸儀明	山崎圭一郎	吉原隆
野左根勝敏	濱野良昭	廣瀨浩克	藤田良治	堀米秀男	松本康彦	宮田武司	諸儀明	山崎圭一郎	吉原隆
延島一	早川尚人	廣瀨正美	藤田倫康	堀米秀男	松本康彦	宮田武司	諸儀明	山崎圭一郎	吉原隆
延島幸一	林廣明	廣瀨みづる	藤賞美喜子	前川晴美	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
延島寛	林百合子	廣瀨宗治	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
野間顕子	林陽子	廣瀨康行	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
野間里美	早瀬則之	廣瀨幸雄	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
野間美行	早瀬廣一	廣瀨喜明	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
野村隆子	早瀬義弘	廣瀨誠商會	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
野村守宏	原篤範	深谷浩一	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
パー力ー幸恵	原孝之	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
萩原明子	原孝之	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
萩原綾子	原田弘太郎	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
萩原典明	原田享子	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
萩原法子	日向野省一	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
箱君克彦	樋口起世子	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
箱守茂樹	比毛健	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
箱守實	比毛重雄	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
箱本敷	比毛重雄	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
橋本聡	比毛重雄	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
橋本位知朗	菱沼郁雄	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
橋本智岳	菱沼英昌	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
橋本清明	日向猛	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
長谷川克巳	榎森博志	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
長谷川恵一	松山俊夫	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆
日向義勝	日向義勝	深谷毅	藤野清徳	前島昭夫	水柿勝彦	宮田洋二	谷島晃	山田日出夫	吉原隆

100周年記念募金事業報告詳細

募金期間 令和5年4月1日～令和6年1月24日

1 募金額及び件数	1,440件	43,061,117円
2 支出		
① 令和5年度海外派遣事業補助		2,109,288円
② 募金活動		
・趣意書印刷費、郵送費		2,049,094円
・寄付者へ記念品送付郵送費		251,338円
・募金活動事務費		190,000円
・払込手数料等		258,537円
3 残金		
教育活動支援基金		38,202,860円

以上

吉原隆	淀縄寛	渡辺貴子
吉岡聡	李美順	渡辺隆佐
吉岡茂和	蓮田大介	渡邊文之
吉澤正夫	若本征史	渡辺正法
吉田憲一	涌井太郎	渡辺千明
吉田静子	渡黒一利	渡辺基二
吉田隆	渡辺明照	渡辺靖夫
吉田春枝	渡邊英一	渡辺康
吉田友子	渡辺一夫	渡辺石材工業
吉田昌子	渡辺一夫	P.T.A.等商支部
吉田注	渡辺克子	
吉野孝子	渡辺克徳	
吉原隆	渡辺啓吉	
吉水智海	渡辺剛	
吉原恒夫	渡辺幸次	
吉原俊光	渡邊さとみ	
吉原広行	渡辺新一	

※寄付金寄贈者については一月末日現在で作成しております。ご了承ください。

主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	H31(R1)年度
東北	0	0	0	1	0
山形	3	4	0	4	3
福島	2	7	5	6	8
茨城	11	25	24	20	24
筑波	5	2	4	5	4
宇都宮	12	13	15	13	7
群馬	2	0	4	7	3
埼玉	4	8	6	9	15
千葉	0	0	3	1	1
東京	0	0	0	0	1
東京工業	0	0	0	1	0
東京学芸	0	2	0	0	2
横浜国立	0	0	1	0	0
その他	9	5	11	5	8
国立大計	48	66	73	72	76

(主な私立大学)

大学名	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	H31(R1)年度
国際医療福祉	15	8	12	17	14
獨協	21	18	21	17	8
文教	14	16	17	16	10
青山学院	4	3	3	3	0
学習院	1	2	2	0	0
北里	5	3	5	2	7
慶應	1	1	1	1	1
國學院	4	10	1	3	5
駒沢	9	7	7	5	8
芝浦工業	1	3	3	4	10
成蹊	2	6	4	0	1
成城	1	4	1	0	2
専修	9	9	13	7	5
中央	8	7	9	3	3
津田塾	0	2	1	0	2
東京女子	4	3	1	1	2
東京理科	5	2	2	2	4
東洋	39	49	32	31	47
日本	27	50	29	38	22
日本女子	2	1	3	0	3
法政	4	7	4	7	5
東京都市	1	0	0	0	1
明治	0	2	8	4	3
明治学院	4	9	3	5	5
立教	7	6	5	4	3
早稲田	0	0	0	1	6
その他	301	338	332	327	270
私立大計	489	579	544	502	446

(主な公立大学)

大学名	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	H31(R1)年度
茨城県立医療	2	0	2	5	2
高崎経済	1	4	4	1	6
東京都立	1	2	0	0	1
横浜市立	0	0	0	0	1
都留文科	2	1	0	1	2
その他	7	15	11	20	14
公立大計	11	21	17	26	24

進路決定先人数

年度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就職	未定・他	卒業者数
R5	54	155	2	7	1	17	236
R4	71	160	1	9	1	23	265
R3	87	156	0	12	2	16	273
R2	77	172	4	3	1	19	276
H31(R1)	84	146	2	13	1	27	273

国立大学 (13名)

- ・弘前大学 1名
- ・茨城大学 4名
- ・筑波大学 3名
- ・県立医療大学 2名
- ・宇都宮大学 2名
- ・埼玉大学 1名
- ・日本体育大学 3名
- ・日本大学 1名
- ・法政大学 2名
- ・武蔵野大学 1名
- ・明治大学 1名
- ・明治学院大学 5名
- ・関西学院大学 1名

私立大学 (45名)

- ・奥羽大学 1名
- ・常磐大学 1名
- ・国際医療福祉大学 3名
- ・自治医科大学 1名
- ・獨協医科大学 1名
- ・女子栄養大学 2名
- ・獨協大学 1名
- ・秀明大学 1名
- ・淑徳大学 1名
- ・千葉工業大学 1名
- ・大妻女子大学 1名
- ・北里大学 1名
- ・慶應義塾大学 1名
- ・國學院大学 1名
- ・昭和大 1名
- ・成蹊大学 1名
- ・中央大学 2名
- ・帝京大学 1名
- ・デジタルハリウッド大学 1名
- ・東京女子大学 2名

専門学校 (9名)

- ・茨城県立つくば看護専門学校 2名
- ・国際TBC小山看護専門学校 1名
- ・さくら総合専門学校 1名
- ・大宮ビューティー&ブライダル専門学校 1名
- ・国際テクニカル調理製菓専門学校 1名
- ・東京ベルエポック製菓調理専門学校 1名
- ・服部栄養専門学校 1名
- ・H.A.L 1名

短期大学校 (1名)

- ・茨城県立産業技術短期大学校 1名

就職 (1名)

- ・税務(関東甲信越) 1名

紫西会報

令和6年度大学入学共通テスト平均点

科目	国語	世界史B	日本史B	地理B	現代社会	倫理政経	数I A	数II B	物理基礎	化学基礎
本校平均	110.2	52.0	47.3	58.2	53.2	46.6	40.7	42.5	24.9	24.1
全国平均	115.7	63.0	58.0	68.4	57.4	62.0	54.4	61.0	30.9	28.9

科目	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	英リーディング	英リスニング
本校平均	31.8	32.8	49.3	43.2	45.7	45.6	64.6
全国平均	32.7	36.7	64.4	56.9	55.7	53.3	68.5

*全国平均は大学入試センター中間発表表のものです。

部活動報告

全国大会出場

ライフル射撃部

☆特別国民体育大会

エアーライフル60発女子

塚田 恵美 (下館中)

☆第61回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会

エアーライフル40発男子

小林 弥来 (桃山学園)

林 直樹 (友部中)

エアーライフル40発女子

塚田 恵美 (下館中)

☆第1回全日本高等学校ライフル射撃選手権大会

エアピストル60発男子

櫻岡 悠翔 (友部中)

チームピストル60発男子

櫻岡 悠翔 (友部中)

写真部

☆第47回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会

写真部 横田和乃花 (久下田中)

文芸部

☆第26回全国高等学校俳句選手権大会

団体出場

☆第24回虚子・こみろ全国俳句大会 入賞

☆芭蕉蛤塚忌全国俳句大会 入賞

☆第17回全日本学生・ジュニア短歌大会 入賞

☆第22回りんり俳句全国大会 入賞

関東大会出場

陸上部

☆令和5年度関東高等学校総合体育大会

男子砲丸投 吉澤 正翔 (下館南中)

男子三段跳び 高久 祐樹 (岩瀬西中)

☆第21回関東高校ライフル射撃競技選手権大会

チームピストル60発男子

3位 櫻岡 悠翔 (友部中)

エアーライフル60発男子

8位 小林 弥来 (桃山学園)

エアーライフル60発男子

小林 弥来 (桃山学園)

林 直樹 (友部中)

エアーライフル60発女子

白茂 優衣 (物部中)

大島 心海 (下館南中)

チームピストル60発男子

櫻岡 悠翔 (友部中)

☆第49回関東高校ライフル射撃選手権大会

チームピストル60発男子

3位 櫻岡 悠翔 (友部中)

エアーライフル60発男子

小林 弥来 (桃山学園)

林 直樹 (友部中)

エアーライフル60発女子

塚田 恵美 (下館中)

チームピストル60発男子

櫻岡 悠翔 (友部中)

水泳部

☆関東高等学校水泳競技会

2000m個人メドレー出場

菅野 慶吾 (結城中)

登山部

☆令和5年度第67回関東高等学校登山大会

団体出場

☆第30回関東地区高等学校写真真展栃木大会出場

山崎 豊隆 (下館南中)

文芸部

☆第26回全国高等学校俳句選手権大会北関東ブロック 優勝

高校部活動紹介

- 1 目標
- 2 部員人数
(うちマネージャー数)
- 3 活動場所
- 4 活動日

硬式野球部

- 1 県大会ベスト8に向けて、選手一人一人が互いに高め合って日々練習しています。
- 2 十九名(四名)
- 3 グラウンド
- 4 火～日曜日

軟式野球部

- 1 人数が少ないという逆境に負けず、文武両道をして全員野球で関東大会出場を目指します。
- 2 六名(二名)
- 3 グラウンド
- 4 火～土曜日

サッカー部

- 1 選手一人一人が主体となり、県ベスト八を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 三十四名(四名)
- 3 グラウンド
- 4 月曜日以外



陸上部

- 1 日々の練習から部員全員で切磋琢磨しあい、五月の総体で全員が県大会出場すること。
- 2 九名(二名)
- 3 ハンドボール場横、紫西会館前、外周
- 4 毎週月火木金土

男子バスケットボール部

- 1 県大会ベスト16を目標に、周りから応援されるようなチームを目指し、練習に励んでいます。
- 2 二十八名(三名)
- 3 体育館
- 4 月曜日以外

女子バスケットボール部

- 1 県大会ベスト16を目指して互いに高め合い、応援される愛されるチームを目指しています。
- 2 十名(二名)
- 3 体育館
- 4 毎週月曜日以外

男子バレーボール部

- 1 大会に出ることはできませんが、少ない人数で日々の練習に励んでいます。
- 2 四名
- 3 体育館
- 4 月・水曜日以外



女子バレーボール部

- 1 県西三位、県大会出場を目標に部員全員が切磋琢磨し合いながら日々の練習に励んでいます。
- 2 九名(二名)
- 3 体育館
- 4 水曜日以外

卓球部

- 1 男子は県大会二回戦勝利、女子は県大会一回戦勝利を目指し、日々頑張っています。
- 2 十三名
- 3 卓球場(旧給食室)
- 4 火～日曜日

バドミントン部

- 1 男子は団体に県ベスト8、女子は県出場を目標に、日々練習しています。
- 2 二十七人
- 3 体育館
- 4 火、土日いずれか以外



- 4 3 2
 4から金曜、土又は日
 ハンドボールコート
 九人(二人)

チームで協力して二人一人が実力をつけて、試合を重ねる度に成長を実感できるよう励んでいきます。



- 1 4 3 2
 1 チームで協力して二人一人が実力をつけて、試合を重ねる度に成長を実感できるよう励んでいきます。
 ハンドボール部
 水・木・土・日曜日
 東西公園テニスコート
 九名



- 1 4 3 2
 1 私たちは、心身の向上と県大会出場を目標に日々練習に取り組んでいます。
 硬式テニス部
 火・土曜日
 テニスコート
 九名(一名)



女子ソフトテニス部

- 1 4 3 2
 1 個人・団体ともに県大会に出場し、ベスト16に入る予定です。
 休日：土日のどちらか



男子ソフトテニス部

- 1 4 3 2
 1 チームワークを高め、互いの尊重と信頼を築き、個人の技術向上して県大会に向けて努力する
 二十四人
 テニスコート
 平日：火・水・木・金

- 4 3 2
 4 月曜以外、または木・日曜以外
 各スイミングクラブ
 二名

大会でベストが出せるように各自の練習に励んでいます。



- 1 4 3 2
 1 大会でベストが出せるように各自の練習に励んでいます。
 水泳部
 基本日曜日以外
 弓道場
 三十三名



- 1 4 3 2
 1 インターハイ出場と美しい射型を目指し、日々練習に励んでいます。
 弓道部
 火・木・金・土
 格技場二階
 三名(二名)



柔道部

- 1 4 3 2
 1 部員が少ない逆境を乗り越え、心を磨き、自分らしいプレーで関東大会を目指します！
 月、土曜以外(例外あり)
 旧定時制給食室(休、祝日は茨城県営ライフル射撃場)



ライフル射撃部

- 1 4 3 2
 1 一人一人が自分の目標を持って日々活動し、関東全国大会出場を目指しています。
 十八名

- 4 3 2
 4 函書室
 水曜日
 五名

茨城県高等学校総合文化祭での入選を目標に活動しています。



- 1 4 3 2
 1 学校や地域のイベントで観客に元気や笑顔を与えること
 チアリーディング部
 火・木・金(水、土イベント前)
 体育館ステージ
 十一名



- 1 4 3 2
 1 素晴らしい作品を観客の方々に届け、楽しんでもらえるよう、日々練習に励んでいます。
 ダンス部
 素晴らしい作品を観客の方々に届け、楽しんでもらえるよう、日々練習に励んでいます。
 紫西会館
 二十四名



登山部

- 1 4 3 2
 1 三〇〇m級の山々に登頂すること、何よりも登山を楽しむこと。
 八名
 山、物理室(ミーティング)



茶華道部

- 1 茶道の礼儀作法を学び、おもてなしの心を養うために、日々活動しています。
- 2 十名
- 3 茶道室
- 4 月二回火曜日

美術部

- 1 展覧会出展を主な目標とし、美大合格も視野に画力向上に励んでいます。
- 2 十六名
- 3 美術室
- 4 毎週木曜日参加必須、その他活動自由

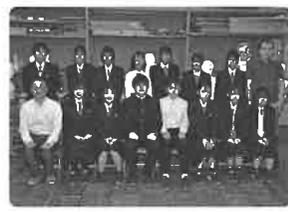
写真部

- 1 県高校総文祭での入賞、関東地区・全国大会出場を目標に日々活動しています。
- 2 七名
- 3 学校内、個人撮影場所
- 4 各行事毎、個人撮影場所など

放送部

- 1 部員それぞれが関東、全国大会出場を目標として日々練習に励んでいます。
- 2 六名
- 3 放送部
- 4 火曜日から木曜日

- 1 県高校総文祭での入賞、関東地区・全国大会出場を目標に日々活動しています。
- 2 七名
- 3 学校内、個人撮影場所
- 4 各行事毎、個人撮影場所など



軽音楽部

- 1 各バンドごとに文化祭での演奏などを目標に、日々練習に励んでいます。
- 2 十六名
- 3 保健室前部室棟
- 4 バンドごとに決めた曜日

ボランティア部

- 1 ボランティア活動を通して、自分たちの視野を広げつつ、様々な経験を積んで社会貢献をする。
- 2 八名
- 3 物理地学講義室
- 4 月曜日の昼休み

執行部

- 1 生徒が主体となって、学校中が「楽しい」と思っていただけのような行事を運営していきます。
- 2 四十九名
- 3 紫西スタディールーム
- 4 七曜祭、クラスマッチなどの行事毎

生徒会

- 1 日々の学校生活の改革に向けた働きだけでなく、行事運営の主体としても活動をしています。
- 2 会長、副会長、書記二名、会計二名、会計監査二名
- 3 生徒会室
- 4 不定期

- 1 県高校総文祭での入賞、関東地区・全国大会出場を目標に日々活動しています。
- 2 七名
- 3 学校内、個人撮影場所
- 4 各行事毎、個人撮影場所など



高校・附属中合同で活動しています

剣道部

- 1 (高) 関東大会出場 (中) ひとつでも多くの大会で勝てるように日々稽古に励んでいます。
- 2 高校五名 中学一名
- 3 格技場一階
- 4 (高) 火、金、土又は日 (中) 月・火・木、土



吹奏楽部

- 1 (高) 吹奏楽コンクールで県西大会優秀賞、県大会出場を目標にして、日々練習に励んでいます。
- 2 高校二十五名、中学四名
- 3 音楽室
- 4 火、土曜日





七曜祭



全校野球応援 (ノーブルホームスタジアム水戸)



クラスマッチ



俳句甲子園 2023 (文芸部・松山市)

学 校 生 活



国内語学研修 (高校1年・プリティッシュヒルズ)



海外語学研修 (中3~高2・オーストラリア)



修学旅行 (高校2年・関西方面)



探究プロジェクト発表会 (附属中3年・水戸市)

4 3 2
火曜日、金曜日

高校八名、中学二名

多目的室

語を学んでいます。
う英語の授業や海外のゲ
ームを通して、楽しく英

ます。

バーで楽しく活動してい

英語部

1 (高) ネイティブな文法

やコミュニケーション力

を学び、個性豊かなメン

バーで楽しく活動してい

ます。

(中) ALTの先生が行

う英語の授業や海外のゲ

ームを通して、楽しく英

語を学んでいます。



4 3 2
毎週水曜日

高校十二名、中学五名

LC教室

高めています。

に

一つに鑑賞の時間を十分

にとり日々実力や感性を

高めています。

(中) 俳句や短歌、一つ

一つに鑑賞の時間を十分

にとり日々実力や感性を

高めています。

文芸部

1 (高) 主に仲間の俳句を

鑑賞・批評して、俳句甲

子園の出場を目指してい

ます。

4 3 2
火曜日

高校七名、中学二名

化学室

火曜日

様々な事を実験し続けて

います。

(中) 私達理科部は日々

好奇心を満たすため、

様々な事を実験し続けて

います。

1 (高) 飽くことなき探究

心と遊べる心から、気まま

に理科に関する実験を行

っています。



附属中学生も

頑張っています

男子バレーボール部

- 1 県大会出場を目標に明るく、全力で日々の練習や週末の練習試合取り組みます。
- 2 十一名
- 3 体育館
- 4 月・火・木・金、土が日

女子バレーボール部

- 1 私たちは、県西大会出場を目指して、日々練習に一生懸命取り組んでいます。
- 2 十名(一名)
- 3 体育館
- 4 月・火・木・金・土

卓球部

- 1 団体戦は県西を、個人戦は県大会出場を目標に日々努力を重ね、頑張っています。
- 2 十名
- 3 卓球場(旧給食堂)
- 4 月・火・金・土

陸上部

- 1 部員全員が県大会に出場することを目標として日々練習に取り組んでいます。
- 2 十五名(一名)
- 3 グラウンド、河川敷
- 4 月・火・木・土曜日

クリエイティブ部

- 1 イラスト制作、写真撮影、デジタル機器を使用した活動などを中心とした活動をしています。
- 2 十四名
- 3 物理地学講義室
- 4 月・木曜日

生徒会本部

- 1 希望と笑顔あふれる学校を目指し、継続開来の精神と思いやりのある心を大切に活動しています。
- 2 会長、副会長、会計、書記二名
- 3 多目的室
- 4 水曜日

職員異動

令和五年度

一 退職者	赤田部清浩 津田 雅教 須藤 弘子 宮川 茂 木内菜々子
二 転出者	早川 尚人 (古河三高校長へ)
転入者	奈良由紀子 (土浦一高より) 堀川 洋
校長	三 転入者
教諭(地公)	赤田部清浩
教諭(家庭)	須藤 弘子
講師(数学)	宮川 茂
講師(理科)	木内菜々子
教頭	堀川 洋
教諭(国語)	野村あかね (下妻二高へ)
教諭(理科)	四家 明彦 (竜ヶ崎一高へ)
教諭(体育)	小島 明 (水海道一高へ)
教諭(英語)	廣岡 大介 (土浦一高へ)
教諭(理科)	飯島 利通 (真壁高へ)
教諭(理科)	星野 雅一 (本校高校へ)
教諭(理科)	松下 興大 (古河二中へ)
実習講師	坂入 純子 (下妻一高へ)
事務(主事)	柳澤 美和子 (石下紫峰高へ)
校長	奈良由紀子 (土浦一高より)
教頭	堀川 洋
教諭(国語)	上林 拓也 (日立工業より)
教諭(理科)	星野 雅一 (本校附属中より)
教諭(国語)	海老名昌博 (八千代高より)
教諭(理科)	福田 侑平 (茨道小より)
教諭(理科)	宮本 耕平 (小瀬高より)
教諭(家庭)	若林 歩優 (新規採用)
教諭(地公)	齋藤 喜博 (並木中等より)
講師(理科)	鈴木 拓馬 (真壁高より)
実習助手	池田 孝子 (筑波高より)
講師(数学)	岩田 隆 (古河中等より)
事務(福主)	菊地 博 (下妻特別支援より)

同窓会学年幹事

令和五年度

- 一組 伊沢 凜夏
鳥羽 夏希
- 二組 篠崎龍之介
林 玲良
- 三組 谷島みやび
綿引 彩那
- 四組 鈴木 昌真
高倉 寿人
- 五組 海老原大夢
村山流宇星
- 六組 板橋 庵
石井 遥菜



編集後記

今年度も新たな同窓生を迎え入れる季節となりました。毎年、卒業式にあわせて発行している「紫西会報」ですが、今年度は県立高校入試が二月に実施されたため、少し遅めのお届けとなりました。

今年度は記録的な猛暑や元日におきた能登半島地震など、自然の脅威を感じることも多い一年でした。そんな中、本校は創立百周年を迎えました。(記念事業などについては本誌の記事をご覧ください)と、多くの皆様からご意見をいただきました。ありがとうございます。

最後になりますが、お忙しい中、快く寄稿くださった林会長をはじめ、諸先生方、生徒も皆さんのご協力でご報告発行の運びとなりました。この場を借りて御礼申し上げます。(館野 記)

編集委員

- 館野 友一
- 中原 高朋
- 星野 雅一
- 菊地 宏之
- 福田 侑平
- 鈴木写真館